



令和2年度企画展「松戸と徳川将軍の御鹿狩（おししがり）」

江戸時代も100年以上たった頃、八代将軍吉宗は、中野牧（現在の松戸・柏・鎌ケ谷市などの地域）の松戸市松飛台付近で2度の大がかりな御鹿狩を行いました。

御鹿狩は同じ場所で、幕末までに合計4回行われますが、数年かけて計画し、1日の狩りのために、江戸川船橋や武士たちが前泊する数十棟の小屋を築造します。また将軍が狩りをながめた御立場は、昭和初期まで残っていました。

本展では、古文書・絵図・錦絵・弓矢・鉄炮などの歴史資料から、江戸時代の松戸の歴史を語るうえで欠かせない、将軍御鹿狩について考えます。

●期 間 令和2年9月26日（土）～11月15日（日）9時30分～17時まで

※入場は16時30分まで

※**プレス展示内覧会：令和2年9月25日（金）14時～15時**

●会 場 松戸市立博物館 企画展示室

●観覧料 一般310円（520円）／高校・大学生150円（250円）

※小中学生無料 ※（ ）内は常設展示との共通観覧料

※11月3日（文化の日）は企画・常設展とも無料。

●展示構成

（1）小金原御鹿狩

3人の徳川将軍が合計4回行った御鹿狩について、主に画像資料から考えます。将軍が狩りを眺めた御立場、江戸川船橋など御鹿狩に欠かせない事柄について、理解を深めます。



「寛政七年小金原御鹿狩絵図」 寛政7年（1795）当館 （松戸市指定文化財）



(2) 御鹿狩と武器

野獣を狩るための弓矢・槍・鉄炮等の武器、旗本たちの派手な陣羽織を描いた絵図、疾走する馬から弓を射る騎射（うまゆみ）のわざを今に伝える流鏝馬（やぶさめ）資料などから、武士と武器・武術について考えます。



「火縄大筒（50 匁）」江戸時代、国立歴史民俗博物館

(3) 小金原の野獣

かつて小金原に生息し、狩りの獲物となった野獣のはく製を展示します。
また、江戸時代の獣肉食についても考えます。



「野羽織」江戸時代 富里市教育委員会

(4) 牧士（もくし）が駆ける

幕府の牧（まき）で現場を管理していた牧士は、御鹿狩でも活躍しました。牧士の家に代々伝わる資料を展示します。

(5) 百姓勢子の活躍

野獣を御立場のある狩場まで数日かけて追い込んだのは、百姓勢子（ひゃくしょうせこ）と呼ばれた農民でした。数万人も動員された百姓勢子について、絵図やゆかりの品から考えます。

(6) 浮世絵のなかの御鹿狩

御鹿狩をテーマにした浮世絵版画（錦絵）を展示し、描き方が時代によって異なる理由を考えます。



豊原国周画「千代田之御表小金原牧狩立場之図」

明治 30 年(1897) 当館



(7) 江戸川の船橋

将軍や武士たちが江戸川を渡るため、金町・松戸間に臨時に架けられた、壮大な船橋について、絵図や日記、残された船橋の部材などから考えます。

また、船橋のそばに停泊した将軍の権力を象徴した御座船・麒麟丸の資料を展示します。



「麒麟丸模型」江戸時代 東京国立博物館

●主な展示資料（資料展示総数80点）

(1) 小金原御鹿狩

「下総小金乃原御狩之図」（当館）

「御鹿狩絵巻」（当館、江戸東京博物館、神奈川県立公文書館）

「御鹿狩関係絵図」（国立公文書館）、「御鹿狩関係浮世絵」（当館）

「御鹿狩かわら版」（当館、国立歴史民俗博物館）他

(2) 御鹿狩と武器

「江戸時代の弓矢」（靖國神社遊就館）、「^{やじり}鏃」（個人蔵）

「火縄銃」（国立歴史民俗博物館、靖國神社遊就館）

「陣羽織」（松戸市戸定歴史館、国立歴史民俗博物館）他

(3) 小金原の野獣

「日本鹿剥製、猪剥製、狐剥製・狸剥製、野兎剥製」（国立科学博物館）

(4) 牧士が駆ける

「牧士羽織」^{あぶみ}「^{あぶみ}燈」「はみ」「馬柄杓」他（富里市教育委員会）

(5) 百姓勢子の活躍

「御用留」（当館）、「勢子幟」（流山市立博物館）、

「勢子采配」（柏市教育委員会）、「法螺」（靖國神社遊就館）他



(6) 浮世絵のなかの御鹿狩

「源頼朝公富士嶺牧狩之図」「富士巻狩の図」(国立歴史民俗博物館)
「温故東の花 第五篇 將軍家於小金原御猪狩之図」「千代田之御表 牧狩ノ
図」「千代田之御表 小金原牧狩立場ノ図」「千代田之御表 松戸宿船橋」「千代
田之御表 小金原牧狩引揚ノ図」(以上、当館) 他

(7) 江戸川の船橋

「船橋完成図」「船橋船」「船橋綱」(以上、野田市郷土博物館)
「麒麟丸模型」(東京国立博物館)、「船橋かわら版」(当館)

(8) エピローグ (御立場のその後)

「1947年米軍撮影空中写真」(国土地理院)

●関連事業

1. 記念講演会

① 「將軍御鹿狩後始末-狩後の將軍と獲物の行方」

日時：令和2年10月11日(日)、13時～15時

講師：國學院大學兼任講師・高見澤 美紀(たかみざわ みき)氏

② 「祝祭としての御鹿狩」

日時：令和2年10月24日(土)、13時～15時

講師：横浜市立大学非常勤講師・椿田 有希子(つばきだ ゆきこ)氏

共通 会場：森のホール21 レセプションホール

定員：各100人

2. 学芸員講演会「さまざまな御鹿狩資料」

日時：令和2年11月1日(日) 13時～15時

講師：松戸市立博物館職員・富澤 達三

会場：松戸市立博物館 講堂

定員：40人

【問い合わせ先】

生涯学習部市立博物館 ☎047-384-8272